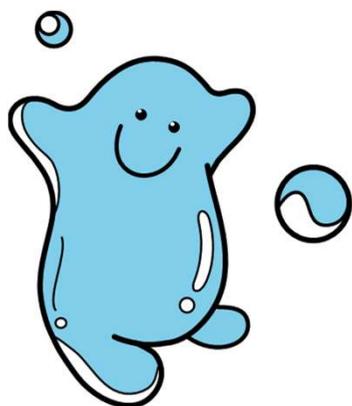


資 料	水-1
作 成	水 道 局 総 務 部
提 出	令 和 6 年 1 月 12 日

令和4年度決算の概要

札幌市水道局

令和4年度 決算の概要



ウオッピー

札幌市水道局公式キャラクター

令和6年（2024年）1月12日
札幌市水道局

目 次

1	収益的収支	P 1
2	資本的収支	P 2
3	資金残高	P 3
4	決算額の推移（5年間） .	P 4
5	業務量	P 5
6	主要事業の概要	P 6
	(1) 豊平川水道水源水質保全事業	P 7
	(2) 石狩西部広域水道企業団への参画	P 8
	(3) 白川浄水場改修事業	P 9
	(4) 白川第1送水管更新事業	P10
	(5) 配水管更新事業	P11
	(6) 西野・定山溪浄水場等耐震化事業	P12
	(7) 配水幹線連続耐震化事業	P13
	(8) 災害時重要管路耐震化事業	P14
	(9) 緊急遮断弁整備事業	P15
	(10) 無線式メーターの設置地域の拡大	P16
	(11) 札幌水道を支える人材の育成	P17
	(12) 環境に配慮した事業運営の推進	P18

1 収益的収支～水道事業の運営に関する収支

- 収益的収支は、1年間の企業の経営活動に伴い発生する「収益」と「費用」からなり、企業の経営成績を表すもの。
- 主に、収入の大部分を占める給水収益と、施設の運転やその管理費など、事業を運営するための費用である運営管理費等からなる。
- 令和4年度決算の収支差引は107億円の黒字(消費税抜の純利益は89億円)となった。

(消費税込、単位:億円)

区 分		予算①	決算②	増減 ③=②-①	増減率 ④=(③/①)×100	備 考
収益的収入	A	457	459	2	0.4%	
営業 収益	うち給水収益	381	381	0	0.0%	
収益的支出	B	373	352	▲ 21	▲ 5.5%	
営業 費用	うち運営管理費	186	171	▲ 15	▲ 8.2%	請負工事費、委託料等の減
	うち減価償却費等	135	132	▲ 3	▲ 2.2%	
	営業外費用	16	16	0	0.0%	
差 引	A - B	85	107	22	26.5%	消費税抜の純利益は89億円

※内訳は主な項目のみ記載している。また、各項目ごとに四捨五入しているため、表中計算が一致しない場合がある。

※予算は現計予算(当初予算に補正予算や流用増減等を加味した額)である。

2 資本的収支～設備投資とその財源に関する収支

○ 資本的収支は、公営企業の将来の経営活動に備えて行う施設の建設・改良等の事業費や、建設改良に係る企業債償還金などの支出及びその財源となる企業債等の収入を表すもの。

○ 令和4年度決算の収支差引は219億円の収支不足となった。

(消費税込、単位:億円)

区 分	予算①	決算②	増減 ③=②-①	増減率 ④=(③/①)×100	備 考
資本的収入 C	74	49	▲ 24	▲ 32.9%	
うち企業債借入	50	30	▲ 20	▲ 40.0%	企業債借入の抑制による減
うち出資金	10	7	▲ 3	▲ 32.4%	石狩西部広域水道企業団の工期延長等による事業費の減
資本的支出 D	303	269	▲ 35	▲ 11.5%	
うち建設改良費	231	201	▲ 30	▲ 12.9%	固定資産取得費等の減
うち企業債償還金	63	61	▲ 2	▲ 2.8%	令和3年度の企業債借入額抑制による減 令和4年度末の未償還残高は526億円
差 引 C-D	▲ 230	▲ 219	11	4.7%	

※内訳は主な項目のみ記載している。また、各項目ごとに四捨五入しているため、表中計算が一致しない場合がある。

3 資金残高

○ 資金残高は、外部に流出せずに企業内部に残っている資金の額を表すもの。

○ 令和4年度末の資金残高は164億円である。

(消費税込、単位：億円)

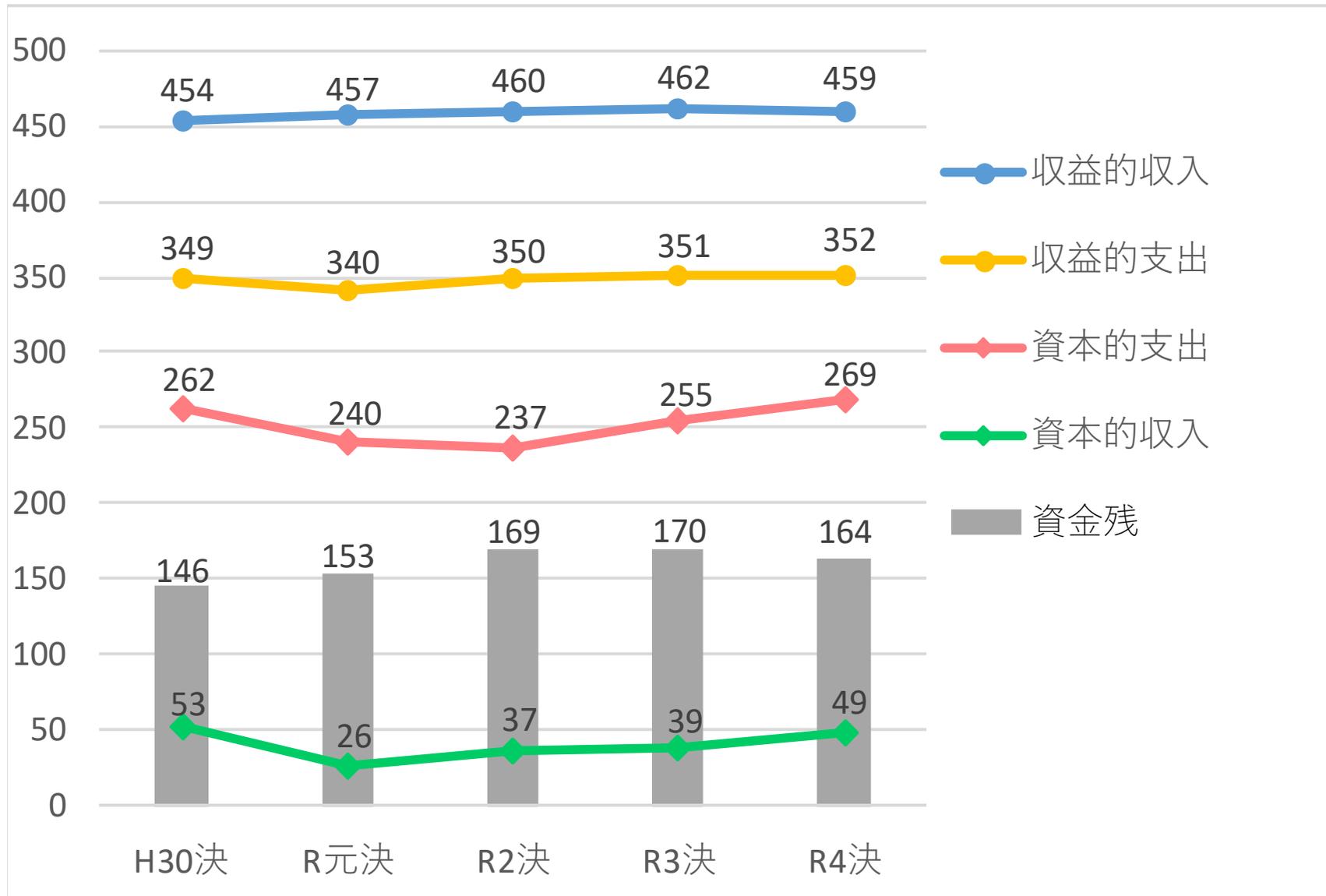
区 分	予算①	決算②	増減 ③=②-①	増減率 ④=(③/①)×100	備 考
当年度資金収支 E	▲ 37	▲ 6	32	84.5%	
収益的収支差引	85	107	22	26.5%	水道事業の運営に関する収支
資本的収支差引	▲ 230	▲ 219	11	4.7%	設備投資とその財源に関する収支
当年度分 損益勘定留保資金等	108	106	▲ 2	▲ 1.4%	減価償却費等の非現金支出の費用による内部留保資金
過年度分内部留保資金 F	170	170	0	0.0%	過年度から繰り越された資金
合計（資金残高） E + F	133	164	32	23.8%	
水道施設更新積立金	96	96	0	0.0%	老朽施設更新のために積立している資金
上記以外の額	37	68	32	86.1%	翌年度以降の建設改良費の財源

※各項目ごとに四捨五入しているため、表中計算が一致しない場合がある。

※予算は補正後で、前年度の繰越を含めた額であり、過年度分内部留保資金は令和3年度決算置換後の額である。

4 決算額の推移（5年間）

（消費税込、単位：億円）



※各項目ごとに四捨五入している。

5 業務量

区 分		4年度決算 A	3年度決算 B	比 較	
				増減△ A-B=C	増減率 (%) C / B
人 口 等	給水区域内人口 (人)	1,967,395	1,967,715	△ 320	△ 0.0
	給水人口 (人)	1,965,989	1,966,252	△ 263	△ 0.0
	普及率 (%)	99.9	99.9	0.0	—
水 量 等	年間配水量 (m ³)	189,246,460	191,992,680	△ 2,746,220	△ 1.4
	1日平均配水量 (m ³)	518,483	526,007	△ 7,524	△ 1.4
	年間有収水量 (m ³)	176,923,630	180,365,600	△ 3,441,970	△ 1.9
	有収率 (%)	93.5	93.9	△ 0.4	—
年度末給水件数 (件)		902,987	895,453	7,534	0.8
年度末配水管布設延長 (m)		6,087,704	6,073,128	14,576	0.2

注) 人口は10月1日時点のものである。

6 主要事業の概要

(消費税込、単位:百万円)

重点取組項目	主な事業	事業費
1 水源の分散配置と水質の安全性の向上	(1) 豊平川水道水源水質保全事業	1,182
	(2) 石狩西部広域水道企業団への参画	1,023
2 施設の更新・耐震化と危機管理体制の強化	(3) 白川浄水場改修事業	594
	(4) 白川第1送水管更新事業	55
	(5) 配水管更新事業	9,082
	(6) 西野・定山溪浄水場耐震化事業	617
	(7) 配水幹線連続耐震化事業	3,631
	(8) 災害時重要管路耐震化事業	539
	(9) 緊急遮断弁整備事業	108
3 利用者とのコミュニケーションの充実	(10) 無線式メーターの設置地域の拡大	380
4 経営基盤の強化と連携の推進	(11) 札幌水道を支える人材の育成	9
5 エネルギーの効率的な活用	(12) 環境に配慮した事業運営の推進	438

6 主要事業の概要

(消費税込、単位:百万円)

重点取組項目	主な事業	事業費
1 水源の分散配置と水質の安全性の向上	(1) 豊平川水道水源水質保全事業	1,182

【事業内容】

豊平川上流域における水質悪化の要因(自然湧水に含まれるヒ素など)を、水道原水から取り除くため、バイパス水路を用いて白川浄水場取水地点の下流にバイパス・放流し、より良質な水を浄水場で取水可能にする。

R4: 定山溪接合井新設工事、管理センター新設工事
天日乾燥床新設工事ほか

管理センター

放流水の水質・水圧を調整



R4年度末状況

天日乾燥床

水処理で出てくる土砂を乾燥し、処理するための天日乾燥床等



R4年度末状況

玉川橋取水堰

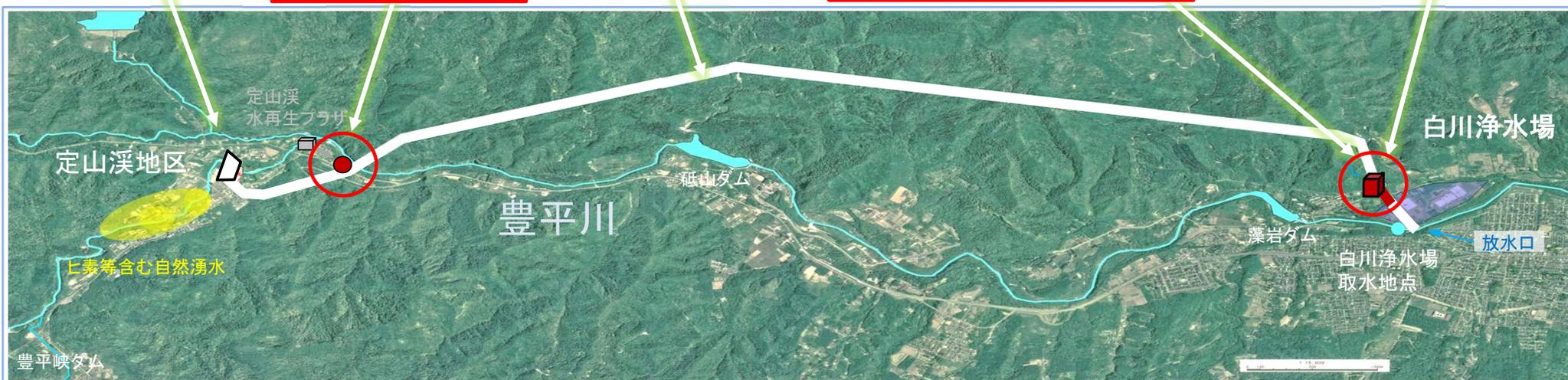
自然湧水を含む河川水を取水

定山溪接合井

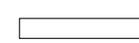
定山溪水再生プラザの下水処理水をバイパス水路へ受け入れるための地下構造物

バイパス水路(約10 km)

取水した水を浄水場取水地点の下流へ回(バイパス)



凡例



整備済



R4 施工箇所

6 主要事業の概要

(消費税込、単位:百万円)

重点取組項目	主な事業	事業費
1 水源の分散配置と水質の安全性の向上	(2) 石狩西部広域水道企業団への参画	1,023

【事業内容】

水源の約98%を依存する豊平川以外に安定した水源を確保し、分散配置するため、当別ダムを水源として水道水を供給する石狩西部広域水道企業団に参画し、令和7年度からの受水に向けた運営に協力する。



R4: 当別浄水場浄水処理施設増設工事
送水管新設工事ほか

6 主要事業の概要

(消費税込、単位:百万円)

重点取組項目	主な事業	事業費
2 施設の更新・耐震化と危機管理体制の強化	(3) 白川浄水場改修事業	594

【事業内容】

耐震性能が不足しているとともに経年劣化が進んでいる既存浄水棟を段階的に改修する。改修は既存浄水棟の浄水処理を停止して行う必要があり、停止時に低下する給水能力を補うため新たに第4浄水棟を先行して建設する。



6 主要事業の概要

(消費税込、単位:百万円)

重点取組項目	主な事業	事業費
2 施設の更新・耐震化と危機管理体制の強化	(4) 白川第1送水管更新事業	55

【事業内容】

経年劣化が進み、耐震性も不足している白川第1送水管を、耐震管を用いて更新する。



R4: 白川第1送水管管内調査ほか

6 主要事業の概要

(消費税込、単位:百万円)

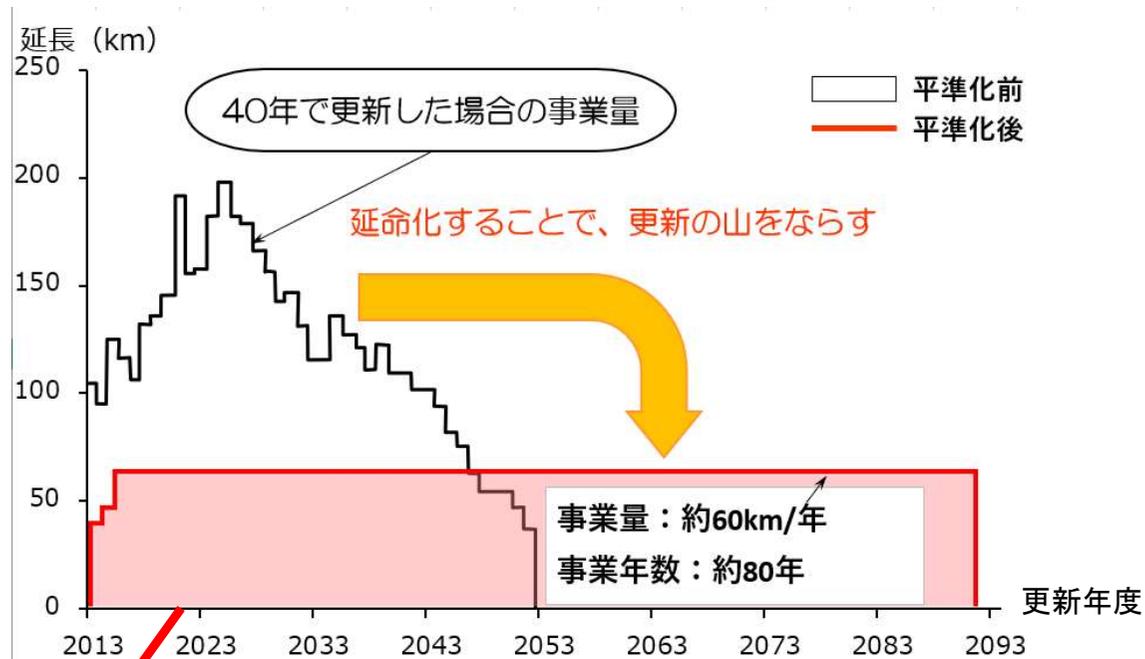
重点取組項目	主な事業	事業費
2 施設の更新・耐震化と危機管理体制の強化	(5) 配水管更新事業	9,082

【事業内容】

配水管(Φ75mm～Φ350mm)の経年劣化による漏水リスクの軽減を目的に管路の更新を進めている。また、更新の際には耐震管を布設することにより耐震化も進めている。

【配水管更新計画の考え方】

配水管の延命化と事業量の平準化を図りながら効率的に更新を実施



R4 : 57.1 km 更新

管路の延命化・事業量の平準化のイメージ

6 主要事業の概要

(消費税込、単位:百万円)

重点取組項目	主な事業	事業費
2 施設の更新・耐震化と危機管理体制の強化	(6) 西野・定山溪浄水場等耐震化事業	617

【事業内容】

地震による浄水場等の被害を最小限に抑えるため、耐震性能が不足している浄水施設の耐震化を行う。

【西野浄水場の耐震化】(R4事業完了)



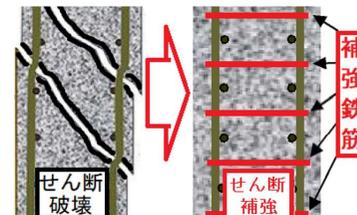
定山溪浄水場の耐震化

- ・導水管の耐震化
- ・浄水場及び取水場などの耐震改修に向けた基本設計

【コンクリート構造物の耐震補強】

鉄筋挿入によるせん断補強

コンクリート内に鉄筋を差し込んでせん断破壊に対して抵抗させる



〔せん断補強施工状況〕



コンクリートの内部に鉄筋が配置されていない位置に削孔して、補強鉄筋を挿入する

R4: 西野浄水場耐震改修工事
定山溪浄水場導水管ほか更新工事

6 主要事業の概要

(消費税込、単位:百万円)

重点取組項目	主な事業	事業費
2 施設の更新・耐震化と危機管理体制の強化	(7) 配水幹線連続耐震化事業	3,631

【事業内容】

4つの基幹配水池(平岸、藻岩、西部、清田)からそれぞれの配水区域末端までをつなぐ基幹となる配水幹線(Φ400mm以上)を切れ目なく耐震化し、災害時においても継続的な配水を可能とする。



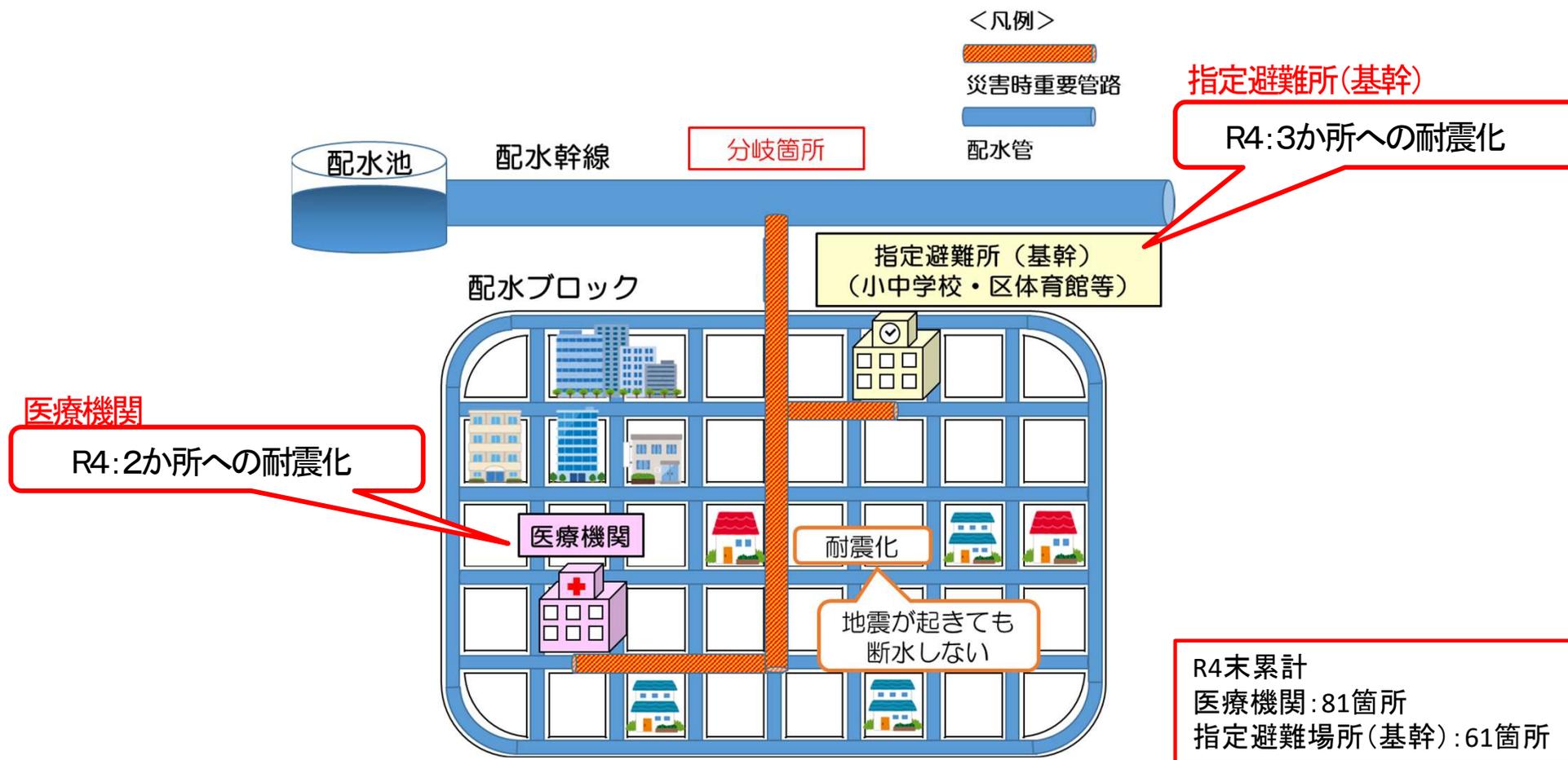
6 主要事業の概要

(消費税込、単位:百万円)

重点取組項目	主な事業	事業費
2 施設の更新・耐震化と危機管理体制の強化	(8) 災害時重要管路耐震化事業	539

【事業内容】

災害時における重要施設である医療機関や小中学校などの指定避難所(基幹)へ向かう配水管の耐震化を行う。



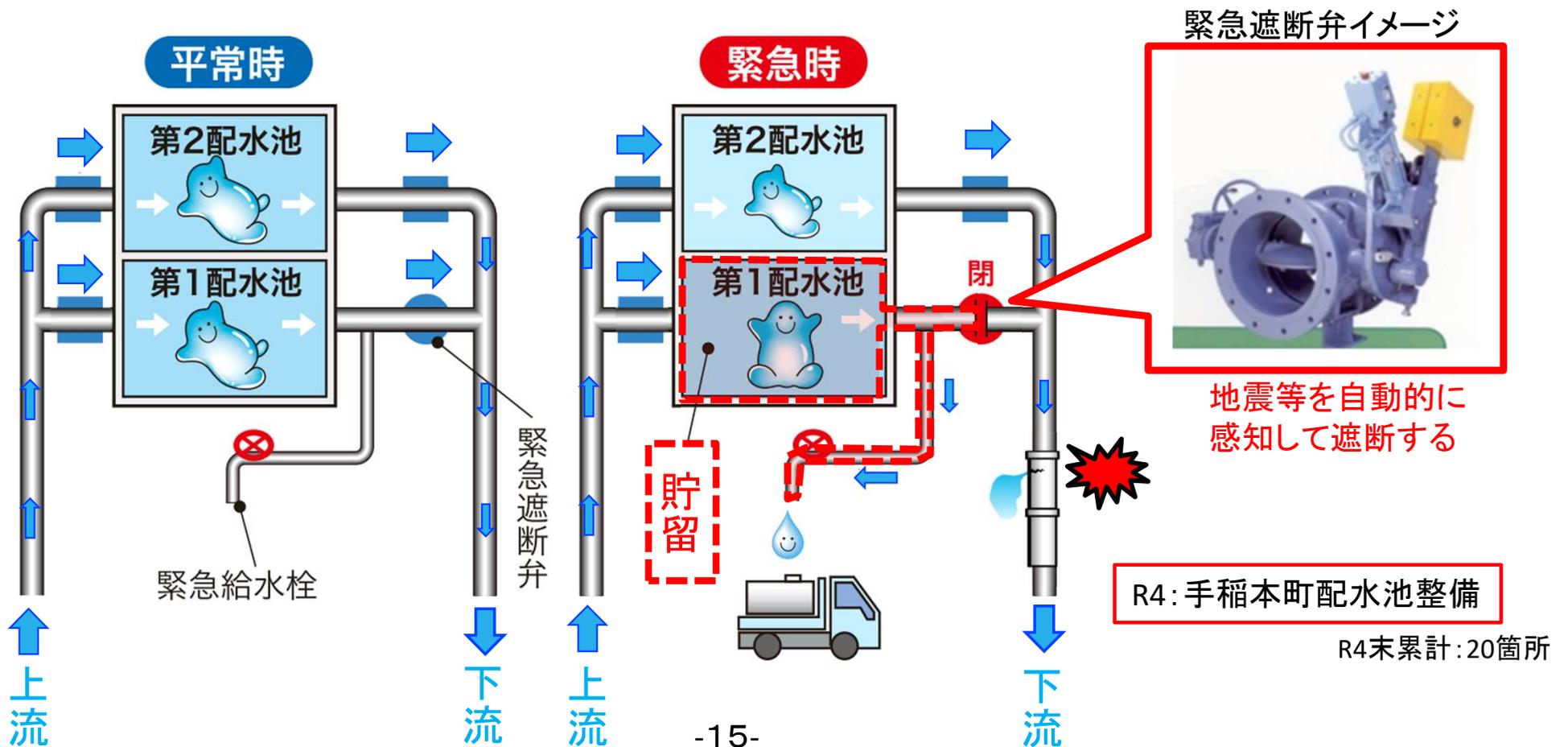
6 主要事業の概要

(消費税込、単位:百万円)

重点取組項目	主な事業	事業費
2 施設の更新・耐震化と危機管理体制の強化	(9) 緊急遮断弁整備事業	108

【事業内容】

地震などにより配水池下流の管路が被害を受けた場合に、応急給水に使用する水を貯留するため、配水池の出口で管路を遮断する緊急遮断弁を整備する。



6 主要事業の概要

(消費税込、単位:百万円)

重点取組項目	主な事業	事業費
3 利用者とのコミュニケーションの充実	(10) 無線式メーターの設置地域の拡大	380

【事業内容】

積雪等で水道メーターを検針することができない場合、過去の使用実績等に基づく推定により水道料金を請求し、雪解け後の検針で過不足額の精算を行っている。その際、多額の過不足が発生することもあり、利用者にとって分かりにくい料金請求となっている。メーターを目視せずに検針ができる「無線式メーター」を導入することで、冬期間でも正確な料金請求が可能となることから、無線式メーターの設置地域の拡大を進める。

【計画概要図】

現行水道ビジョン

区等	年度	現行水道ビジョン				
		R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
既設 (※1)	清田	満期ごとに交換(R2~R9)				
	南					
	手稲	満期ごとに交換(R4~R11)				
新設 (※2)		清田・南：R3~				
		手稲：R4~				

<設置個数>

年度	設置個数	
R2	(実績)	9,435
R3	(実績)	12,703
R4	(実績)	17,869
R5	(予定数)	22,692
R6	(予定数)	29,000

<満期>

水道メーターは、計量法により、製造から8年間経過したものは使用できないことから、新たなメーターに交換が必要となる。

※1 既設: 地下式メーターが既に設置されているもの

※2 新設: 新たに水道メーターを設置するもの

6 主要事業の概要

(消費税込、単位:百万円)

重点取組項目	主な事業	事業費
4 経営基盤の強化と連携の推進	(11) 札幌水道を支える人材の育成	9

【事業内容】

水道事業の運営に必要な知識・技術を次世代の担い手に確実に継承していくため、職員研修の実施や研修資料の整備を行うほか、各種資格取得者を計画的に確保する。

職員研修体系		概要	令和4年度 実施回数	令和4年度 延べ受講者数
内部研修	職場研修(部内・課内)	課内/部内の職員を対象に日常業務を通じて計画的かつ継続的に実施する研修	741回	4,614人
	局内研修	局職員を対象に一般に共通する事項に対し実施する研修	25回	433人
外部研修	委託・派遣研修	国、地方公共団体、民間企業などの外部組織が主催する研修や講演会	44回	75人
	資格取得	各種法定資格者等を計画的に確保・養成するための、講習受講や試験受験	37回	92人
	局外研修	札幌市総務局自治研修センターで実施する研修や他部局が主催する研修	44回	902人

実施状況



感染症対策のため、オンラインで研修実施



浄水場見学



給水タンク車 操作方法



動画教材を作成

札幌水道ビジョンの指標

	令和4年度末実績	令和6年度末目標
内部研修時間	16.2時間	23.0時間
外部研修時間	6.1時間	7.0時間

※職員1人あたりが年間に受講した研修の平均時間

6 主要事業の概要

(消費税込、単位:百万円)

重点取組項目	主な事業	事業費
5 エネルギーの効率的な活用	(12) 環境に配慮した事業運営の推進	438

【事業内容】

低炭素社会の実現に向けて、水力発電などの再生可能エネルギーの導入を進める。

平岸配水池の水力発電設備(発電出力670kW)



豊平川バイパスの水力発電設備(発電出力770kW)



水力発電設備設置場所
(分水井の上部フロア)